

# 羽田空港のこれから

ニュースレター

地域特別号

2022年春

このニュースレターは、羽田空港の現在の飛行経路に関する影響軽減及び国土交通省が提案する国際線増便のための取り組みについて、地域の皆様とのコミュニケーションの状況を広くお知らせするために発行しています。

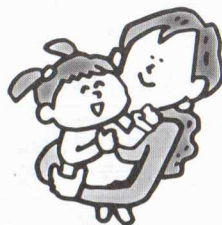
## 2020年3月29日より羽田空港において新飛行経路の運用が開始され、千葉県内の騒音軽減が図られています。

羽田空港に離着陸する航空機は、2020年3月29日より、一定の時間帯において新たな飛行経路にて運航しています。

新飛行経路を運用することにより、下記のとおり千葉県内の騒音軽減が図られています。

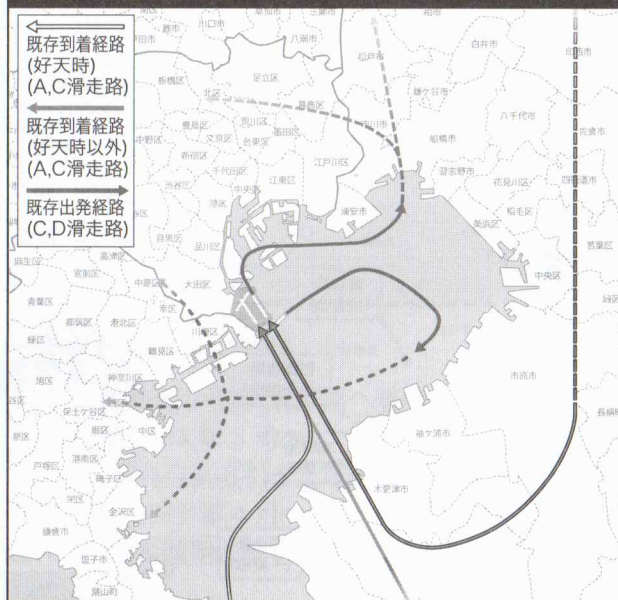
### 北風運用時の騒音軽減

7時～11時半、15時～19時のうち3時間程度において、離陸機が荒川の上空を利用して上昇しています。(右図A)

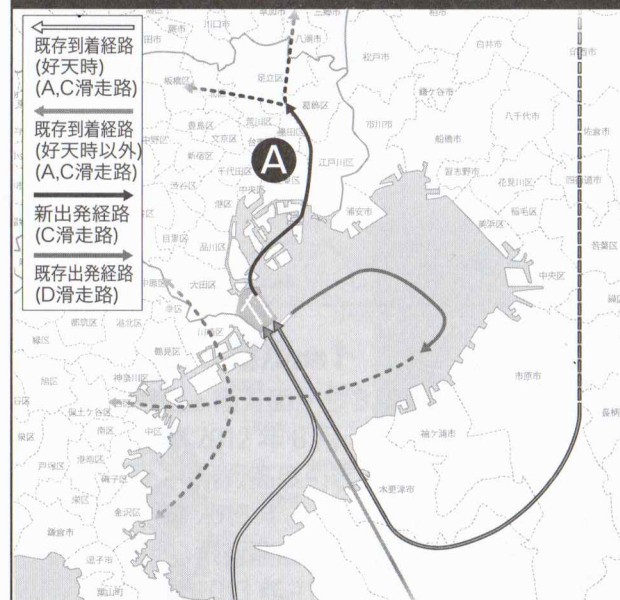


### 北風運用時の飛行経路

6時～23時のうち、右記以外  
(既存の飛行経路)

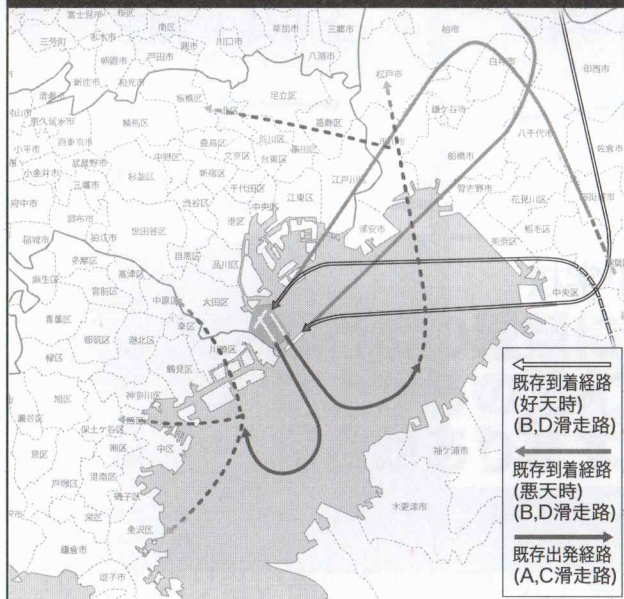


7時～11時半、15時～19時のうち3時間程度  
(新たな飛行経路)

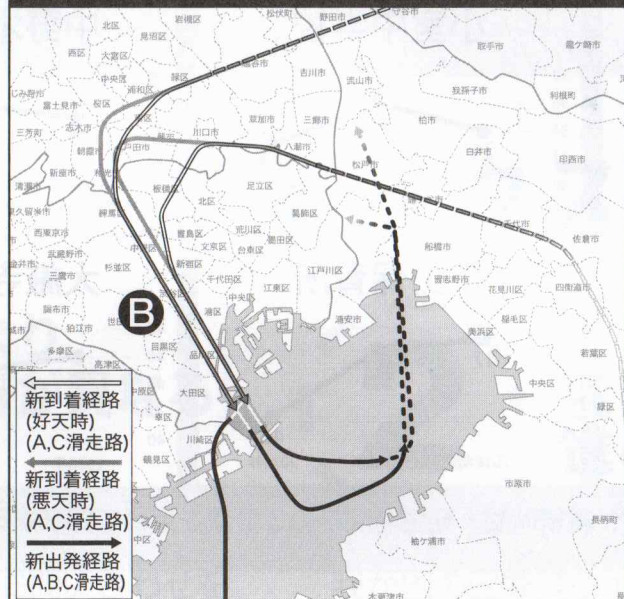


### 南風運用時の飛行経路

6時～23時のうち、右記以外  
(既存の飛行経路)



15時～19時のうち3時間程度  
(新たな飛行経路)



—— 6,000ft 未満    - - - - 6,000ft 以上

南風運用時の騒音軽減

15時～19時のうち3時間程度において、到着機が都心上空を飛行することで千葉県上空を6,000ft未満で飛行しなくなりました。(左図B)



# 新飛行経路の運用状況について

			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2020年 ※2020年3月29日 運用開始	北風運用時 新飛行経路(離陸)	運用日数(日)	—	—	3	29	25	25	16	24	22	31	29	30
		運用機数(機)	—	—	279	1410	584	891	995	1411	1687	2555	2764	2912
	南風運用時 新飛行経路(着陸)	運用日数(日)	—	—	0	17	20	21	20	23	10	4	7	3
		運用機数(機)	—	—	0	818	713	981	1377	1849	538	266	491	213
2021年	北風運用時 新飛行経路(離陸)	運用日数(日)	31	25	27	25	23	25	24	19	28	30	集計中	
		運用機数(機)	2197	1170	1619	1527	1305	1627	1629	1412	2471	2506		
	南風運用時 新飛行経路(着陸)	運用日数(日)	1	17	15	19	21	22	16	21	8	9		
		運用機数(機)	12	643	826	1231	1532	1258	1118	1716	563	696		

※限られた時間の運用であっても新飛行経路を運用した場合は、運用日数にカウントしています。

# 千葉県内の影響軽減の取組について、ご質問にお答えします



新飛行経路の運用開始後、騒音は少なくなっているのですか？

南風運用到着経路下・北風運用出発経路下に設置している測定局の測定結果は下がっていますが、複合的な要因によるものと考えられます。

検証を  
継続します

南風運用到着経路下・北風運用出発経路下に国土交通省が設置している騒音測定局における、2020年の測定結果（時間帯補正等価騒音レベル：Lden エルデン）は新飛行経路運用前と比較して低下しています。この結果は、新飛行経路の運用開始や、新型コロナウイルス感染症の影響による航空機の減便や機体の低騒音化等の複合的な要因によるものと考えられます。新飛行経路運用開始による効果については、引き続き新飛行経路の運用を継続し、モニタリングと検証を実施してまいります。

## 千葉県内の航空機騒音測定局（経路の変化がない木更津局、君津局、富津局を除く）の測定結果



測定局	施設名
浦安局	浦安市墓地公園
曾谷局	市川市立曾谷保育園
小室局	船橋市立小室中学校
中野木局	船橋市立中野木小学校
佐倉局	佐倉市立上志津中学校
四街道局	四街道市立みそら小学校
本町局	千葉市立本町小学校
平山局	千葉市立平山保育所
大巖寺局	千葉市立大巖寺小学校

## 年間Lden値の推移



※Lden：時間帯補正等価騒音レベルのこと。騒音を音の大きさ、継続時間、発生時間帯の3要素を用いて評価する。



北風運用時の到着経路を  
できるだけ海の上にはできませんか？

富津沖海上ルートをもっと運用するための取り組みを  
続けています。

設備改良  
しました

北風運用の好天時（視界が良く、決められた地点から海ほたるの地標航空灯台が視認できる場合）に使用することができる富津沖海上ルートの最大限の活用により、地上への影響軽減を図っています。2019年3月28日より、海ほたるに設置している地標航空灯台の明るさを10倍にし、航空灯火の視認性を高めた結果、これまで富津沖海上ルートが運用出来なかった天候状況において、運用出来たケースが報告されており、効果を発揮しています。

### 富津沖海上ルートの運用状況

当初見込み	2019年度	2020年度
25%	21.0%	26.8%

※新型コロナウイルス感染症の影響による減便下での数値